

# 廃棄物協組が設立

## 来年1月から本格運用へ

### 共同で事業系一般ごみ収集



記者会見する協業組合役員ら

全国で初めて廃棄物収集  
み袋を使って事業系一般ご  
み収集をする会津若松市事  
業系一般廃棄物協業組合が

業系一般廃棄物協業組合が二十九日、同市で設立された。組合は来月から市内の事業所を対象に、ごみ収集実証試験を開始し、来年一月から本格運用を目指す方針。

組合を立ち上げたのは、市内六社。これまで各社が個別に月決め、年契約などで分量制限なしで収集してきた各事業所の一般ごみを、有料ごみ袋による共同

収集に転換。事業所は、ごみ袋(容量四十五リットル、一袋百五十二百円を想定)を

袋に分別して出す。共同収集で効率化を図り、排出量に応じた料金を実現。排出事業所も、ごみ袋使用量を抑制することで、ごみ削減ができる。

実証試験期間の十月から十二月までは、同組合三社が、約六百社に協力を求め、来年一月からは全社がごみ収集の足並みをそろえるのを目指す。

この仕組みづくりは収集運搬業者と排出事業所、福島大が連携した会津環境保全研究会が全国に先駆けたモデル事業として取り組んできた。

設立総会の後、記者会見した渡部豊一理事長は「環境と調和した住みよい会津の地域づくり」に役立ちたい」と抱負を話した。